

琉球大学学術リポジトリ

自主的, 実践的な集団活動の充実を図る学級づくり :
リーダーシップ・フォロワーシップの育成を通して

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学大学院教育学研究科 公開日: 2021-04-21 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 平良, 学, Taira, Manabu メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/48305

自主的、実践的な集団活動の充実を図る学級づくり

—リーダーシップ・フォロワーシップの育成を通して—

Designing Classes to Enrich Voluntary and Practical Group Activities:
Focused on Nurturing the Leadership and Follow-up Ship

平良 学

Manabu TAIRA

琉球大学大学院教育学研究科高度教職実践専攻・金武町立嘉芸小学校

1. はじめに

生産年齢人口の減少や人工知能(AI)の飛躍的な進化、グローバル化がさらに進み、Society5.0と呼ばれる「超スマート社会」が到来するといわれている。これを合田(2018)は「自分の頭で考えて表現する力、対話や協働を通じて知識やアイデアを共有し新しい解や納得解を生み出す力が人間としての強みである」と主張し歓迎している。また、浅野(2018)は「人間に求められる能力は、単純作業ではなく、課題を発見し、解決していく創造性に変わっている」と述べ、このことから、私は「超スマート社会」ではAIで補えない対話や協働を通して社会を創造していく能力が必要になると受け止めている。

超スマート社会の到来を見据えた文部科学省(2017)は、「社会の変化に向き合うこと」や「他者と協働し課題解決することのできる能力を育成すること」と学習指導要領改訂において述べ、特別活動の目標も「集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、資質・能力を育成すること」と改められている。杉田(2017)は「特別活動固有の見方・考え方で集団や社会における問題を捉え、より良い人間関係形成・社会参画・自己実現に結びつけることができる」と述べ、予測困難な社会の変化に対応する力を育成するために、特別活動の充実を図ることは今後重要になると指摘している。他者と関わり合い、集団や社会における課題を解決する力を身につけられるように、特別活動を軸に集団活動の充実を図ることは、今後の重要な課題であるといえる。

沖縄県においては「貧困」から生まれる課題が山積し、困難な状況の中で日々の生活を送っている子ども達が多数いる。さらに、インクルーシブ教育が推進される中で、特別支援学級数の急激な増加により、2010年度272名だった在籍数が、2019年度では3389名と約12倍に急増している(『沖縄タイムス』.2020.8.21)。これは、特別支援教育への理解が高まっている成果だといえる。一方で、藤原(2017)は、「貧困状況にある子、発達障害を抱えている子などに教師は共感することが大切です。彼/彼女らの排除ではなく、教室に居場所を確保し、学び合うことが今の重要な実践課題になっている」と、学力向上対策の過熱による子ども達の排除を危惧している。支援が必要な子に、必要な学習の場を提供すると同時に、多様なニーズを求める子ども達が学級の集団活動の場で共に学び合うことのできる指導の在り方も問う必要がある。

これまでの私の実践は、集団活動や話し合い活動、集団や自己の生活上の課題解決といった活動は取り組んでいたものの、「自主性」や「多様なニーズに応える」という点については意識が弱かった。そのため本実践を通して、誰もが集団活動において互いのよさや可能性を発揮するためにはどのように働きかけたらよいか、自主的、実践的に集団活動に参加し、課題を解決する力を育成するためにはどうあ

課題研究最終報告

るべきかをテーマとし、解決する方法として、年間を通して集団活動を設定し、話し合い活動の充実を図り、リーダーやフォロワーの指導を行なっていくことにより、学級集団は変容すると仮説を立て、取り組むことにした。

2. 研究の目的

年間を通して自主的、実践的な集団活動に取り組み、見通しをもってリーダーシップやフォロワーシップの育成を図ることで、子ども達が課題を発見し解決することのできる学級づくりを目指す。

3. 研究の方法

本研究では、(1)年間実践計画(表1)の設定 (2)多様な集団生活の場 (3)リーダーシップ・フォロワーシップの育成 (4)話し合い活動の充実 に重点を置き、児童の変容を子どもの発言や子ども相互の振り返りシート、教師の経過分析からみとり、まとめるものである。

(1) 年間実践計画(表1)の設定

大和久・丹野(2014)は集団活動において、「ねらいを持って、意図的計画的な展開を組むことによって学級集団は育っていく」と計画の重要性を述べている、この点を参考に、本研究を遂行するにあたり年度当初に年間実践計画予定(表1)を設定し、本計画とリーダー指導の(表2)と照らして学級づくりを進めることにした。

表1 年間実践計画の一部

学期	1 学期				2 学期				
指導の留意点	原案づくりや当番活動などの取り組み方を教師主導で、丁寧に指導する。				次第に教師主導から子ども主導へ移行していく。フォロワーの育成に力点を置く。				
月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
全校行事	新任式・始業式・入学式・1年生を迎える会・夏期休暇	交通安全指導	教育相談・プール開き・平和集会・避難訓練・スゴテ	非行防止教室・終業式・夏休み	始業式	運動会練習	運動会・教育相談	学習発表会・赤い羽根募金・避難訓練	終業式
学年行事	学力テスト	遠足			職場体験マナー講座	職場体験・運動会係結成	老人施設交流・薬物乱用防止教室	海外交流会・修学旅行説明会・学力テスト	修学旅行・大掃除
学級行事	学級開き 学級懇談会	学級目標の掲示物を作ろう	プール清掃 PTAバレー	1学期まとめの会		夏休み発表会・学習発表会実行委員結成			アルバム撮影
健康体育	身体計測・歯科検診・視力検診・耳鼻科検診	尿検査	内科健診				ブラッシング指導		
学級集団づくりの見通し(目標)	班編成の方法・班長編成の方法・学級リーダー会の指導・班長会の指導				班編成の方法・班長編成の方法・学級リーダー会の指導・班長会の指導				
学活	班編成の話し合い・班長・班員・班活動の話し合い(班長も集める)・班活動準備・進行	学級目標を決めよう・1年生を迎える会・授業指導	イベントの企画原案作り・班編成と向き合う・班づくり①・アンケート	1学期まとめの会・班づくり②・アンケート	班づくり③・アンケート	運動会づくり	学習発表会づくり	修学旅行づくり	2学期まとめの会
実行委員会	遠足	1年生を迎える会	1学期盛り上げよう会・学級目標作成	まとめの会		エイサー実行委員会	学習発表会実行委員会	修学旅行実行委員会	まとめの会実行委員
班活動 (1ヶ月)	給食	当番を決めよう			当番を決めよう				
	掃除	当番を決めよう			当番を決めよう				
	係	当番を決めよう	係を決めよう		当番・係を決めよう				
	学習面	全員が授業やペアで考えを発言しようとする				全員が授業で意見を発表しようとする			班が授業を受け持つ
	遊び	週1回班で遊ぶを提案			週1回1つ以上の班で遊ぶを提案				
学級内クラブ			サークル活動を導入・援助する			学級でイベントを行えないか働きかける	学習発表会との関わりをもつ	修学旅行との関わりを持つ	
子どもの様子	班ノート・実践記録を毎年実施・アンケート		教育相談			アンケート	教育相談		アンケート

(2) 多様な集団活動の場

大和久・丹野(2014)は「班活動や学級内クラブ、実行委員会などの多様な集団活動を通して、子どもの居場所づくりや出番づくりを行い、個人と他者との関係、あり方を学ばせることができる」と集団活動のよさに目を向けている。楠(2012)は「学級内クラブなどの活動は、発達に課題を抱えた子どもが意

課題研究最終報告

見を表明できる場としても有効である」と述べ、子どもの特性に応じて多様な集団活動の場を設けることは、居場所づくりにも有効であり、多様なニーズを求める子ども達が共に学ぶことのできる手立てとして必要であるとしている。

(3) リーダーシップ・フォロワーシップの育成

リーダーシップとは、自らが集団の先頭に立ち、学級全体または小集団を指導できるような力であり、フォロワーシップとは、リーダーを支える力のことである。大西(1990)は「生徒たちが集団としての行動を自分で起こすためには、その先頭になって、まず動き出し、叫び出すような生徒が必要である」と述べている。このことから私は、自主的、実践的な集団活動の充実を図るためには、リーダーシップの育成が必要不可欠であると捉え、さらにリーダーシップ育成のステップとして、フォロワーシップの育成も欠かせないと考えた。照本(2015)は「リーダーを育てることは、フォロワーを育てること」と指摘する。そこで、リーダー指導の段階(表2)を「よりあい期」「自治への移行期」「自治への確立期」「自治の発展期」の四段階(大和久・丹野, 2014)に分け、表1のように多様な集団活動のデザインを自分なりにつくった。

表2 リーダー指導の段階

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
リーダー指導の段階	よりあい期 何よりも班長やリーダーの「やる気」が大事な時期				自治への移行期 仕事の困難さ・大切さの自覚			自治への確立期 リーダー機関の確立			自治の発展期 リーダー経験者のフォローアップ		
指導の 順序 性	第一段階	班やグループを代表して発表したり、班・グループの先頭に立って行動したりできる。				班やグループの人を動かすことができる。			学級分析ができ、リーダー機関で学級の活動内容と指導内容を考えることができる。			リーダー経験を持つ者達は、班長やリーダーを支えることができる。	
	第二段階	簡単な仕事の仕方、会議の仕方、決まったことの実行の仕方の基本を覚える。				仕事を具体的に分担し、仕事の結果を上手に評価できる。			自分の班だけではなく、他の班・グループや学級全体を指導できるようになる。			リーダー経験を持つ者達は、リーダー会に対して必要な協力を行うことができる。	
	第三段階	班やグループの利益に敏感で、班・グループのメンバーの不利益に黙ってはいない。また、班やグループの名誉を守ろうとする。				班やグループの利益だけでなく、学級全体のことを考えることができる。			次の班長を自分から作り出すことができる。			リーダー経験を持つ者達は、全校、家庭、地域の取り組みに連んで参加できる。	
留意点	リーダーの予想と発見をすすめる				班がえ、班長選挙などを通してリーダーの改選をすすめる。			リーダーの中心となる子たちへの個別の接近(通信・対話)を強める。			リーダー経験を持つ者達と新しいリーダーたちとのリーダーサークルを形成する。		
班長選出と班編成	教師が班をつくる。班長は班内互選。				班長が班をつくる。班長は立候補・推薦で選出。			班長が班をつくるか班長会が班をつくるか。班長は立候補者の中から選出。			班長会が班をつくる。班長は立候補者の中から選出。		
班づくりのポイント	生活目標の取り組み、係・当番、学習、遊び・文化活動など、班を中心とした取り組みを重視する。				学級の統一目標や共に進める学級活動や文化活動を目指した班間			問題別小集団の活動を発展させたり、取り組み領域の拡大を進めたりする中で、学級の活動内容を発展させていく。			全校や学年、家庭、地域への取り組みを恒常的に進めていく。		

(4) 話し合い活動の充実

子どもたちの関わり合いが増えることでトラブルも予想される。竹内(2016)は「ケンカ・口論・相談・話し合い・討論へと発展させる中で、遊びと『自治』のルールをつくりだし、子どもの自由と平等を保障する自治的な集団を構築していく」と、トラブルを歓迎し自治的集団づくりにおける話し合い活動の重要性を強調している。私はトラブルを負の出来事ととらえてきたが、必然的な話し合いの場と考え、積極的にトラブルを待ち、年間を通して話し合い活動の充実を図ることとした。

3. 研究の実際

(1) 研究の対象及び実施期間

公立小学校6学年児童29名(男子17名、女子12名)を対象にする。実施期間は、2020年5月から11月にかけて実施する。

(2) 学級の実態(6月)

本校では、年に2回(6月と10月)、学級

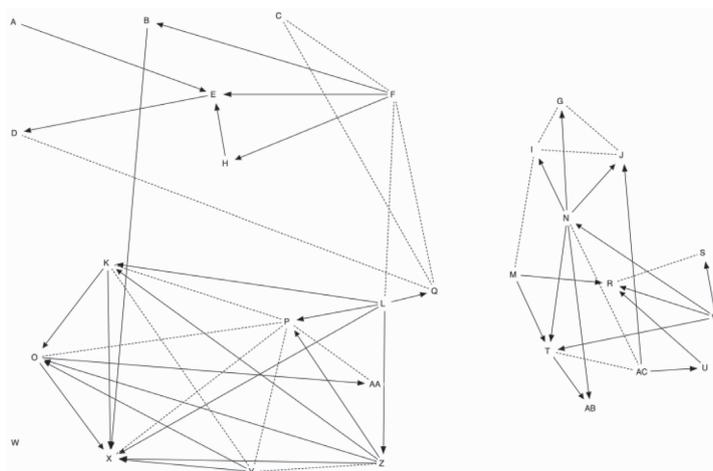


図1 6月1日に実施したアンケートより

の実態を把握するため、アセスを行なっている。アセスは、「個人と環境との主観的な関係」をデータで表すことができ、その指標から「本人が感じている SOS の度合い」を測り、教師の観察やそのデータと照らし合わせることで、よりの確な支援を構築していくために用いられる(栗原・井上, 2010)。

6月1日に実施したアセスの学級分布表からは、要学習支援領域に属する子が数名いることが分かった。また、学級全体的に見ても学習意欲に課題が見られることが分かった。さらに要対人支援領域に入る子はいないが、その境界線に近い子も数名いることが分かった。

5月21日には、学級内の子どもの関わり合いの程度を図るためアンケートを実施した。その質問項目「誰とよく遊びますか。名前とその人の良いところを教えてください」についてまとめたのが図1である。この図にある矢印は、一方向のみの関わり合いを、点線は双方向の関わりを示している。この図から、仲間との関わりをあまり感じていない子がいることや、一方向のみの関わりが多いということが読み取れる。

(3) 6月から11月にかけて取り組んだ集団活動

① まずやる気、1年生をむかえる会の実行委員会(6月)

1年生を迎える会実行委員会では、4名が立候補した。本実行委員会では①出し物についてのアンケートをすること②アンケートをもとに学級会を提案すること③出し物決定後、出し物の構成を考えること④練習中にみんなをまとめたり、指示を出したりすることなどの活動を行なった。4名の実行委員は2週間という短い期間で意欲的に忙しく活動し、最後まで粘り強く取り組んだ。1年生をむかえる会終了後、実行委員に感想を書いてもらった。

◆今回、初めての実行委員会をやってみて、①みんなが文句を言ってきたり、一年生にアンケートを取ってきたり、大変だったけど、リーダーシップを大きく育てることができたと思います。(中略)②自分が実行委員会じゃない時は、反省を活かして、前向きな意見を出したりしたいです。

◆(前略)だけど、メンバーがAさんと、Bさんと、Cさんと、僕だったんで、楽しかったです。そして、リーダーは、とっても大変だなと思いました。だから、③今度やる実行委員が決めたことは、全力でやろうと思います。

下線①からは、リーダーとして活動することに対してのやりにくさがうかがえる。実際、実行委員がまとめようとするに、文句を言う子がいたり、みんなが決めたこととは違うことをやろうとしたりする子がいた。このことから本活動では、リーダーを支えるフォロワーの存在が少なかったことが考えられると共に、黙っていないフォロワーが存在していることを示している。下線②や③からは、リーダーを経験し、どのようなフォロワーの存在が重要か、フォロワーの在り方を振り返っていることがわかる。このことは、リーダーとフォロワーが相互に関係していることを示している。集団としてはリーダーに不満は言えるが、その表現の仕方は否定的な不満という形で表出されていた。この点から否定的な言動を要求に変えることをフォロワーに指導すればよいのではないかと考えた。

② リーダーの変容、1学期を盛り上げよう実行委員会(7月)

1学期を盛り上げよう会実行委員会では、5名が立候補した。本活動では「やる気」を大切にしながらもリーダーとして役割の指導を進めることを意識していく。盛り上げよう会の内容を定める学級会では「野球」か「バレー」で意見が分かれ、最終的に多数決で決めることになった。

◆ぼくは今日、おたのしみ会で、けいかくした、野球を、やりました。みんな楽しそうにやってほしいとぼくは前日に思いました。

①野球をやりたいくなくさそうな人がいました。中にはとっても楽しそうな人も、いっぱいいて、ぼくもたのしかったです。②時間がなくているんな人ができなくてかわいそうでした。だけど、③ドリームタイムにだいたいの人で、ドッチボールを2回やりました。そこではじゆうさんかなのでさんかしていない人もいたけどやっている人はとってもたのしそうな顔でした。またこうやって

時間をつくって、みんなで、やりたいです。そのために次の実行委員会にがんばってもらいたいです。

◆今日、4校時に一学期を盛り上げよう会(野球)をしました。④4回裏までできたけど打つことができなかつた人がいたので2時間とるなどやりたいです。後、ライン引きを朝にできなかったので決まりをきちんと守り、朝で引くようにしたいです。⑤でも、感想発表で、Dさんが「最初は野球は嫌だったけど、寒さにやったら楽しかった」といっていて、それを聞いた時ぼくはがんばってよかった、と思いました。そして、⑥時間の問題で打てなかつた人もいたのでドリームタイムにドッジボールをしました。すると、打てなかつたEさんは楽しんでいたのでよかったです。(後略)

前回は、リーダーにフォロワーが不満という否定的な態度をとっていたが、今回はリーダーが野球を提案してきたのに対し、フォロワーからバレーボールという修正案が出された。不満が要求になったのである。しかし、決める際に多数決にしたため実行の過程において一部の子に感情的なしこりが残った(下線①参照)。これは課題である。実際に大会を通して、感想にあるように時間の都合上バッターをすることのできなかつた子に対して目が向けられていることがわかる(下線②④参照)。そのため、実行委員会の自主的な提案で、ドリームタイム(昼に確保されている30分間の休み時間のこと)に希望者で、ドッジボールをするということになった。これは、リーダーがフォロワーを意識し、みんなが満足できるよう配慮したからであり、その結果、話し合い時に不満をもっていた子も楽しく活動することができた(下線③⑥参照)。また、参加の様子やコメントを聞いて、やりがいを感じたことなどは、リーダーとしての役割を自覚したといえよう(下線⑤参照)。このような経験を通してリーダーの役割をまとめ、会を閉じた。

③ 多様な出会い、班づくり(10月)

班活動では、学習での教え合い、給食当番、当番活動(学級を運営していく上で必要な役割を分担し、個人に割り当てた活動)、清掃活動、班ノート(班員でまわすノートを1冊作り、その日にあった出来事などを日記のように書いていく取り組み)の5つの活動を実施した。本学級は10月までの5ヶ月で4回の班づくりを行なっている。その中から、9月班のふりかえり(表3)を以下にまとめた。

表3 9月班のふりかえり

9月班のよかったところ	
<ul style="list-style-type: none"> ・係の仕事を分担してできた。…3名 ・朝の会のゲームなどが楽しくできた。…3名 ・男女混合だったからよかった。…2名 ・算数の問題などみんなで協力して取り組むことができた。…3名 ・みんなで何かあっても協力や助け合いをすることができた。…8名 ・話し合いの活動で、みんなで集まって話し合いを進められた。…5名 ・あまりおしゃべりがなかつた。 ・リーダーシップがあった。 ・やさしい。真剣に取り組んでいた。 ・先生のところに集まる時、みんな早く集まっていた。 	
9月班の改善点	
授業の規律に関して <ul style="list-style-type: none"> ・うるさい…8名 ・おしゃべりが多かつた…6名 ・ふざけていた…2名 ・真剣に取り組む。 	学習について <ul style="list-style-type: none"> ・勉強を教え合う。 ・発表を多くする。 ・勉強が分からな過ぎた。教えきれない人がいない。
リーダーとフォロワーについて <ul style="list-style-type: none"> ・協力出来ていなかった。3名 ・あまり仕切っていなかつた。 ・もっと早く行動すること。 	その他 <ul style="list-style-type: none"> ・掃除の時間を守ることができなかつたこと。 ・班活動であまりスムーズにできなかつた。

「9月班のよかったところ」には、仲間と協力したり助け合ったりすることで充実した班活動が展開されていたことが書かれていた。しかし、「勉強がわからな過ぎた。教えてくれる人がいない。」などの意見もあつたことから、10月の班づくりでは、教え合いが充実するような班づくりをテーマに、班長たちの話し合いにおいて、どのようにすれば学習ができる班になるのか、また声かけが必要な子を誰と一緒に班にしたら学習に参加できるかなど、学級の人間関係を見合い、学級全体のことを考えながら班づ

くりを行うことに時間をかけた。このような班長との話し合いの中で、子どもたちが他の子をどのように見ているのか、意見を交換することで新たな見方ができた。

④ 双方の考えを大切することのできた、学習発表会実行委員会(11月)

10月22日、学習発表会実行委員4名が立候補した。その後、実行委員会が原案を作成し、「学習発表会の内容を決めよう」を議題に第22回学級会(表4参照)を実施した。事前に行ったアンケートでは、学級の過半数以上が「劇に関する内容を発表したい」と意見を書いていたことから、リーダーがその意見に沿って案をまとめ、提案したことからもめることなく学級会が進むと予想していた。

しかし、多くの子どもたちが「六年生の一日」を表現することに賛成していることに対し、Gさんが「歴史の劇をやりたい」と譲らない場面が出てきた。これは、7月学級会の再現になるのではないかとハラハラした。まず互いの意見に対して、どうしてその劇をやりたいのか質問する場が設けられた。学級会でこれまで経験した場面である。しかし、本学級はなかなか折り合いをつけることができなかった。双方が意見を述べ対立する時間が続いた。意見が出し尽くした頃、「六年生の一日の中に、歴史の劇を入れたらいい」という新たな案がHさんから出された。この案に対して、多くの子どもたちから「なるほど」と声が漏れ、拍手が沸き起こった。Gさんに対して意見を聞くと、快く承諾した。

話し合いを通して、自己主張ができる所まではできたが、自分と異なる意見を受け入れることは、7月の学級会ではできなかった。それが今回は、他者の意見を取り入れ、ひとつの案としてまとめることができた。これは話し合うということは、考えの異なる異質な他者に出会うことであるということを感じてきた子どもが、考えが違っても自分と同じようにやりたいことを実現したいという気持ちは共通しているもので、それを尊重したのではないかと考えた。

テーマが決定すると、劇の役割分担を行い、シナリオを読みながら練習を開始した。原稿を読むだけなのに、一生懸命取り組まない子がいて、なかなかスムーズに進まない。班で活動する場面においても互いに協力し合い、準備しようとする子と、どうしてもふざけてしまう子がいる。時折「ちゃんとやって！」と班長からも声が上がっている。リーダーシップを発揮しようとする者と、それを拒もうとする姿が見られる。学習発表会の当日を迎えるまで、このような場面が多くみられた。しかし、何度も繰り返し発表の日がちが近づくとつれ、活動する様子や劇の進行もスムーズになり、次第に子ども達の様子も引き締まっていった。学習発表会終了後、実行委員に感想を書いてもらった。

- ◆クラス全員の意見もしっかりと取り入れて台本を仕上げないといけないので、少し大変さを感じたけれど、良い台本を最後に完成させることができたので、①すごく達成感を感じる事ができました。
- ◆実行委員は、少し大変だったけれど、挑戦してみて良かったと思いました。なぜなら、実行委員をやってみて、②責任の重大さを改めて感じられたことと、少しでも学習発表会を実行するための力になることができたと思うからです。この経験を生かして、色々なことに、これからも挑戦していけるようにがんばります。
- ◆私は、初めて実行委員をして、「実行委員は大変だな」と思いました。なぜなら、みんなの意見を聞いて、それをまとめて発表をするのでちょっと大変だと思いました。③でも、それを自分はやっているの、ちょっとすごいと思いました。それでも少しいやなところがありました。ドリームタイムに遊びたいけど我慢して、それを何回も繰り返すのは正直いやでした。でも④みんなの役に立てるし、自分のためにもなるので最後まであきらめないでよかったです。

下線①③からは実行委員に対するやりがいと、活動したことによる自己肯定感の高まりが感じられる。下線②④からは、他者を意識し何かの役に立つことができるよう、努力しようと活動した様子がうかがえる。リーダー指導の段階(表2)と本感想を照らすと、「自治への移行期」にあたる子どもの意識が芽生えているのではないかと捉えた。本活動を通して、自分たちが自主的に活動する困難さと大切さを自覚することができたのではないだろうか。

課題研究最終報告

4. 成果と課題

これまでに取り組んだ集団活動をまとめると以下ようになる。誰もが学級において互いのよさや可能性を発揮し、自主的、実践的に集団活動に参加し、課題を解決する力を育成するため、本実践を進めてきた。当初予定していた年間実践計画(表1)は新型コロナ対策の休校措置の影響により、順調に進めることはできなかったが、年間を通して様々な集団活動(表4)を実践することで、話し合い活動の充

表4 取り組んだ集団活動

学期	取り組み	取り組み	①話し合いのきっかけ ②決まったこと ③取り組みの内容 ④子どもの様子	
一学期	班活動	朝の自主活動	④7月10日、学級のほとんどの子どもたちが朝8時には担当する掃除場所や委員会活動に参加することができている。	
		学習の教え合い	④班で考えを交流したり、教え合ったりすることが好きなようである。グループ活動の手順を教えている。	
		給食当番	④初めての席替え以降、当番活動は順調にすすんでいる。班内で上手に役割分担をし、各活動を行なっているようだ。例えば、1年生の掃除担当の人数を状況に応じて変更したり、負担が大きい掃除場所には多めに人を配置したりするなど、工夫して取り組んでいる。課題は、時間にルーズな面である。見通しをもって活動できるように、班長に声かけを行なっていく。	
		清掃当番		
		当番活動		
		班ノート	③その子の趣味や家での過ごし方など、自由に記述させたり、時にはテーマを決めて記入させている。	
	学級会	第1回	転入生の歓迎会をしよう	④5月21日に実施(一校時)。プログラムの確認後、自己紹介やゲームなどをして過ごす。似顔絵大会で各班盛り上がりを見せる。
		第2回	係・当番を決めよう	④係や当番を決めるのに、2時間使ってしまった。次回は、決め方を簡単にする必要がある。
		第3回	いつ体育着に着替えるか	①体育着に着替える時間が曖昧だったため、体育に遅れる子がちらほら。そのため時間を決めることになった。
		第4回	移動教室の際は、誰がどう並べるか。	②2名の子が立候補し、移動教室の際に並べてくれる役となった。
		第5回	いつ体育着に着替えるか②	①曜日によっては体育着に着替えられる時間が限られる。そこで曜日ごとの時間を決めることに。以後、遅刻が減る。
		第6回	水曜日、木曜日はいつ帰りの支度をするか。	②5・6校時の合間に準備をすることになった。
		第7回	みんなで共有する物の扱い方の約束	①梅雨時期のため、トランプや将棋などのおもちゃを貸し出す。その際、みんなで使うための約束事を決める。
		第8回	1年生を迎える会の出し物を決めよう	②一番希望が多かったのは「つなひき」だったが、コロナ対策により3密を防ぐ必要があるため、「ダンス」となった。
		第9回	ピンポン球の迷惑にならない使い方	①梅雨で外で遊べないこともあり、教室で範囲を決めてピンポン球を提供。②迷惑にならないように使うように約束を確認。
		第10回	ピンポン球を使う範囲を広げたい	②ピンポン球の使える範囲を拡大。
		第11回	PCをみんなで共有するための約束	①休み時間にPCを独り占めにしている状態だったため②ホワイトボードに名前を書いて順番で使うようにすることを決める。
		第12回	給食から掃除までスムーズに流れるために	①時間に間に合わなかった②給食の準備を15分以内を目指す。
		第13回	ダンスの途中で1年生を巻き込むか	①迎える会練習中。一部の男子だけで盛り上がっていた。緊急の話し合いの結果。②みんな(一年生含む)でダンスをすることに。
		第14回	係・当番を決めよう②	④今回は、1時間で各班の係が決定した。あらかじめ組み合わせを考えていたことがよかったのだろう。
		第15回	PCの使い方	②使用する前に担任の許可を得ること・学校で見てもいいものを視聴すること。
		第16回	1学期を盛り上げるために	④学級会では、バレーかバスケットで分かれた。話し合いに折り合いがつかず、多数決で野球となった。折り合いは今後の課題。
		第17回	授業の約束	②メリそう(メリハリを付けて黙想する)・わーばいさんけー(授業中に関係のないことはしない)③良いところを褒める)
		第18回	緊急に用があつて授業が進められない時の過ごし方	②静かに読書をして待つ。
	実行委員会		1年生を迎える会	④練習中、一部だけで盛り上がろうとする数名の男子。周りからは「ちゃんとやってほしい」の声。臨時の学級会8を開く。
			1学期を盛り上げよう会	④実施後、実行委員会の一人がみんなでドッジボールをしようとして提案した。そのドッジボールに20名程度の子が参加した。
			学級個人目標作成	④教室掲示する学級個人目標を作成する。イラストクラブの中から、5名が立候補。アンケートをとりデザインを作成した。
	学級内クラブ		イラスト	③学級のイラストを描くことが好きな子どもたちを中心に結成している。この中から「学級個人目標作成実行委員」のメンバーが結成。
		スポーツ	①「1学期を盛り上げよう会」の結成をきっかけに、結成された。	
学級レク		16種類のアイスブレイクを実施	①学級の硬さをほぐすため、実施している。	
二学期	班活動	・朝の自主活動 ・学習の教え合い ・給食当番 ・清掃当番 ・当番 ・班ノート	③1学期の取り組みを継続して取り組んだ。	
		第19回	運動会のスローガンを決めよう①	①代表委員会に提案する運動会のスローガンを決める必要があった。
		第20回	運動会のスローガンを決めよう②	④6年生で小学校生活最後の運動会であるため、スローガンに「最後」という言葉を入れるか入れないかで意見が割れる。
		第21回	運動会のスローガンを決めよう③	②スローガンの決定
	学級会	第22回	学習発表会の内容を決めよう。	①学習発表会での6年生の内容を話し合う。
		実行委員会	運動会エイサー	④3名(女子)が立候補。練習中の声かけや司会進行などの仕事を行う。
学習発表会	④4名(女子)が立候補。学習発表会の内容についてみんなの意見を集約し、台本を作るなどの仕事を行なった。			
学級レク		6種類のアイスブレイクを実施	今年度終了まで、合計30のアイスブレイクを実施したい。	

課題研究最終報告

実を図れたことや子ども達に役割と他者の反応を意識することが教えられたことは大きな成果である。

特にリーダーの指導では、やる気から始まり、集団の要求を受け提案を柔軟に修正する力をつけることによって、リーダーとしての役割を自分から発見することができた。フォロワーは、まず不満を言い合い、その否定的な態度を肯定的な要求として言語化し、対案として論議することを指導することが学級を高める上で重要であることがわかった。このように一連の集団活動を年間計画に沿

って展開したことで、集団の関係図は相互の行き来が2倍近く増え、コミュニケーション能力が増し、個々の人間関係能力を高めたと考える（図2参照）。

一方課題としては、先に述べたことを年間計画に指導の見通し、過程として付け加え指導の構想として持つことである。また、今年はコロナウイルスの関係で、学校生活が中断されたこともあるが、取り組みが連続できず、多くの子どもたちを実行委員やリーダーとして活躍させられなかったことである。子どもたちがこのような経験を積むことで自主的に集団活動を生み、フォロワーとしての在り方にも目を向けるのではないかと考えるが、そのような記述は見られなかった。今年度はリーダーの側から視点が中心であったが、この研究を継続し、フォロワーの側からの子どもたちの声にも着目したい。そのため、フォロワー育成についてどのように教師が指導する必要があるかなどを課題として捉え、次なる実践としたい。

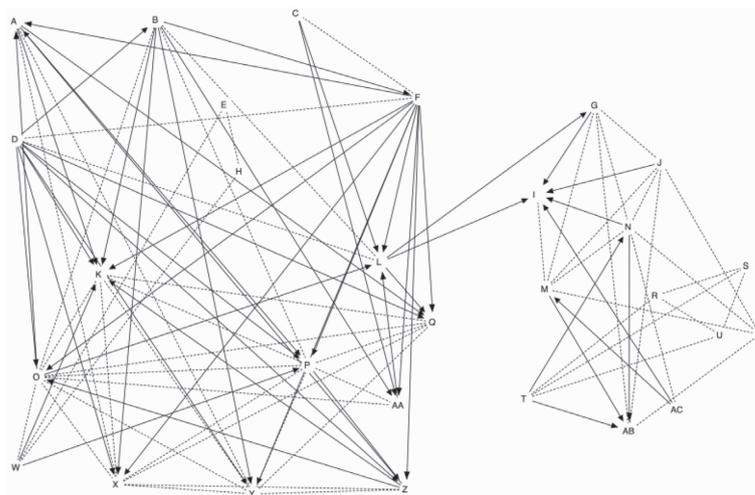


図2 11月30日に実施したアンケートより

引用文献

- 浅野大介(2018)。「日本社会の限界を破る人材の育成を」『月刊教職研修』47-(3), pp. 90-93.
- 藤原幸男(2017)。「全国学力テスト体制と子どもの貧困・排除」加藤・上間ほか編『沖縄子どもの貧困白書』かもがわ出版, pp. 122-127.
- 合田哲雄(2018)。「『人間としての強み』を育てる学校教育を」『月刊教職研修』47-(3), pp. 86-89.
- 栗原慎二・井上弥(2010)。「『アセス(学級全体と児童生徒個人のアセスメントソフト)の使い方・活かし方』ほんの森出版株式会社, pp8-9.
- 楠凡之(2012)。「『自閉症スペクトラム障害の子どもへの発達援助と学級づくり』高文研, pp. 110-173.
- 文部科学省(2017)。「『小学校学習指導要領(平成29年度告示)解説特別活動編』東洋館出版社, p. 1.
- 大西忠治(1990)。「『集団教育入門』国土社, p. 33.
- 大和久勝・丹野清彦(2014)。「『班をつくろう』クリエイツかもがわ, pp. 141-142.
- 杉田洋(2017)。「『平成29年版小学校新学習指導要領の展開』明治図書, p. 19.
- 竹内常一・小渕朝男・関口武(2016)。「『生活指導と学級集団づくり小学校』高文研, p. 20.
- 照本祥敬(2015)。「学級集団づくりをどうすすめるか」竹内栄一・折出健二編『生活指導とは何か』高文研, pp. 46-71.